

アールスメロン新品種「サカエ秋」の特性

農業研究センター 農産園芸研究所 野菜部

担当者：末永 善久、西本 太

研究のねらい

本県のアールスメロンは全て市販品種であり、県独自品種がない状態である。本県の主要品種の「セイヌ系」は糖度が高く、ネット形成が容易で作りやすい品種であるが、後半の樹勢が弱まりやすく、果皮色が灰緑色で高級感にやや欠けており、食味においてもアールス純系に比較して劣っている。このため品質が良く他県産地との競合に勝ち抜ける独自ブランドの確立を図る。

研究の成果

- 1 草勢は「セイヌ系」より強く、「雅秋冬」よりもやや弱い。両性花の着生は高温下においても安定し、約90%の着生率である。
- 2 果皮色は灰白色で高級感を有し、果実肥大性は11月中旬収穫タイプで約1.7kgである。果形はやや長円形～円形となる。果実内部品質は果肉色が黄緑色で、糖度は15度まであがり、「セイヌ系」より食味は優れるが、やや晩熟である。日持ち性は「セイヌ系」並であり、果実の黄化は発生しない。
- 3 耐病性ではつる割れ病抵抗性はない。うどんこ病に対しては抵抗性は有しないが、純系より発生は少なく、「セイヌ系」と同等である。

普及上の留意点

- 1 適応作型は8月上旬播種の11月上～中旬収穫である。
- 2 定植前につる割病予防のため、土壌消毒を行う。
- 3 低温及び多肥で、果実が硬化しすぎると発酵果になる場合がある。

表 1 育成系統の果実特性及び収量調査

播種 年月日	品種 系統	果重 g	果形 比	ネット		果皮 色	糖度 (BX)		食味	a 当たり 秀優収量
				盛上り a	揃い b		胎座	中央 c		
H9 8/25	セイヌ秋冬	1697	1.06	3.5	3.9	灰緑	14.6	11.2	並	216 kg
	テムズ秋冬	1407	1.01	3.6	3.5	灰白	14.5	12.7	やや良	139
	サカ工秋	1436	1.06	3.6	4.0	灰白	14.4	13.8	良	223
H10 8/11	セイヌ秋冬	1607	1.04	3.6	3.6	灰緑	15.2	10.4	並	125
	テムズ秋冬	1553	1.01	2.9	3.0	灰白	14.8	11.7	やや良	66
	雅 秋 冬	1441	1.04	3.7	3.6	灰白	14.8	11.1	やや良	66
	サカ工秋	1519	1.06	3.7	3.7	灰白	14.8	11.5	良	137
H10 8/5 d	セイヌ秋冬	1762	1.02	4.1	4.0	灰緑	14.9	10.0	並	159
	サカ工秋	1858	1.03	3.2	3.6	灰白	15.0	13.5	良	231

注) a, b: 無~有 (0~5)

c: 果実赤道面の果肉の中央部 d: 現地

表 2 育成系統の試食調査結果 (協力: 社団法人熊本県野菜振興協会)

H10.12月2日

系統・品種	外観評価				順位	果実内容					順位	総合		
	点数					点数						順位	点数	順位
	皮色	盛上り	密度	小計		果肉色	香り	食感	甘み	小計				
セイヌ秋冬 (農産) 雅	5.0	5.0	5.0	15.0	5	5.0	5.0	5.0	5.0	20.0	5	35.0	5	
秋冬 (県産)	5.8	5.9	6.1	17.8	4	5.3	5.4	6.0	5.8	22.5	4	40.3	4	
サカ工秋	6.8	5.3	6.6	18.7	2	7.4	6.3	6.9	7.1	27.7	1	46.4	2	
アールス純系 (静岡産)	8.2	7.7	7.9	23.8	1	6.9	6.7	6.9	6.5	27.0	3	50.8	1	

注) セイヌ秋冬 を 5.0 としたときの 10 点満点での評価 (採点者は外観 18 人、内容 19 人)



写真 1 サカ工秋果実